

第1回 旭川ダム再生 環境検討委員会 議事要旨

- 開催日時：令和8年5月15日（金）14時00分～15時40分
- 開催場所：国土交通省岡山河川事務所2階会議室（WEB併用）
- 出席委員：○河原 長美 岡山大学 名誉教授
小林 秀司 岡山理科大学 理学部動物学科 教授（WEB参加）
波田 善夫 岡山理科大学 名誉教授
前野 詩朗 岡山大学 名誉教授
丸山 健司 日本野鳥の会 岡山県支部長
山地 治 岡山県野生動植物調査検討会 昆虫部会長
(○：委員長)

●議事要旨

(1) 設立趣意書及び規約(案)・公開規定(案)について

事務局より会則の規約（案）、公開規程（案）について説明を行い、承認された。

(2) 旭川ダム再生事業の概要について

事務局より資料に基づき、旭川ダム事業内容を説明した。指導・助言の内容は次のとおり。

- ① 降水量の把握がアメダス2地点のみでは少なく、流域内の実態を十分に捉えられていないのではないかと懸念がある。ダムサイトや自治体の観測データも活用すべきではないかと考える。また、近年は降水量の総量よりも変動幅が大きく、局地的豪雨が増えているため、流量予測の精度や前提条件に不安がある。さらに、水田面積の減少による流域特性の変化も影響が懸念される。流域平均での評価は理解できるものの、根拠説明が図だけでは不十分に感じられるため、より詳細な情報で開示できれば良い。

(事務局)

ダム再生計画は、過去の実績や近年の降雨変化を踏まえ、実績の1.1倍の降雨にも対応できるよう、今後20年間を見据えて策定している。また、気象や降雨特性の変化は重要と認識しており、治水全体や流域治水の観点から、今後も内部で検討を進めていく考えである。

- ② 模型実験はどの程度のスケールで実施しているのか。

現行と再生後でピーク流量は大きく変わらないように見えるが、重要なのは継続時間と洪水形状である。現行では大きな流量が長時間続くのに対し、再生後はピークが短くなるため、下流での洪水リスク（堤防破壊など）が低減される。こうした違いを住民に分かりやすく説明し、事業の重要性を理解してもらうことが大切である。

(事務局)

規模については、確認する。（→ 模型縮尺 1/62.5）

今後の住民説明でもご助言頂いた内容を踏まえて説明していく考えである。

- ③ 既存堤体の撤去は水中で施工するのか、水位を下げて行うのか。水位を下げて施工する場合、環境への影響が懸念される。

(事務局)

施工方法はまだ検討中であるが、水中施工も可能と考えている。一方で発電への影響や環境面も考慮し、水位を大きく下げることは難しいため、これらのバランスを踏まえて今後詳細を検討していく。

(3) 環境影響評価の進め方について

事務局より資料に基づき、本事業における環境影響評価の進め方を説明した。指導・助言の内容は次のとおり。

- ① 工事中の水質は、出水や渇水時など通常と異なる状況で大きく変化する可能性があり、環境への影響も不確実で重要な課題となる。そのため、水質や環境条件を考慮し工事計画に反映する仕組みや、アセスメントとの連携が懸念される。

(事務局)

現時点では具体的な提示はできないが、工事中の濁水については、影響が大きくなる状況や工種を想定して予測を行う予定である。その結果は次回以降に示しつつ、今後も相談しながら検討を進めていく考えである。

- ② 現行ダムでは底層水が放流されることによる下流環境への影響を懸念しており、選択取水の運用状況や、水温などを調整できているのかを確認したい。また、新ダムでは環境に配慮した放流が行われるのか。

(事務局)

現行ダムでは発電取水と選択取水が独立しており、十分に連動した調整ができていない。新ダムでは選択取水設備を整備し、通常時は表層水を放流、増水時のみ底層水が出る仕組みとすることで、下流環境への配慮を図る方向で検討する。

- ③ 河川下流の環境改善（礫河原の再生等）のため、洪水時にあえて多少の土砂を流すような運用をしてもらいたいと思う。

- ④ 堆砂除去工事は、ダムの堆砂の除去という理解でよいのか。

(事務局)

現行ダムは100年分の堆砂量を想定して設計されており、現在建設から約70年経過しているが、堆砂量としても想定通り堆積している。ダム再生事業の実施にあたっては+100年持たせる想定で操業していく必要があるため、現在堆積している砂をある程度除去していく必要があると考えている。

- ⑤ 貯砂ダムの設置により、上流側の水位が上昇して危険になることはないか。

(事務局)

堆砂が溜まれば速やかに除去する運用とし、上流が危険にさらされないよう検討する。

- ⑥ 今すぐということではないが、事業を締める際の振り返りとして、本事業の実施により生態系に対してこういったプラスの影響が想定されるというような内容を示していただければと思う。

(事務局)

そうした発信は、本省の施策として「流域総合水管理」にもつながると考えており、整備計画の中でもそういった環境の目標というのも掲げているので、事務局としても整理していきたいと考えている。

- ⑦ 水質予測に用いる鉛直二次元モデルについて、洪水時や異常時にも十分対応できるのか疑問があり、三次元モデルでの対応は可能か。放流ゲートの位置によっては貯水池の水質改善につながる可能性が考えられる。

(事務局)

水質計算は現在評価の中で進めており、水位低下時に発生する濁りの影響も考慮したモデルを作成している。特に水位を下げた状態での出水時の濁度への影響が大きいと想定し、その点を含めて今後も確認しながら検討を続けるとしている。

- ⑧ ダムの放流水に有害物質が含まれる場合の処理について、処理によって有害成分だけでなく必要な栄養成分や特定の元素まで取り除かれてしまい、その結果、下流の水が栄養不足（貧栄養化）になる可能性があるのではないかと懸念される。そのため、処理する材料でそのような影響を及ぼさないよう配慮して頂きたい。

（事務局）

予測計算の結果を踏まえ、対策を検討する際に考慮する。

- ⑨ ダム下流の河床で伏流水が停滞し、生物多様性が低下する現象がある。伏流水を担保できるような構造を作って頂けたら助かる。

（事務局）

検討の中で、構造的な仕組み等も含め対処を検討する。

以上